様式１０

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲　口 甲口保 乙　口　　第 435 号 乙口保 口　修	氏　名	多田 英介
審査委員	主　査　宮本 洋二 副　査　松香 芳三 副　査　吉村　弘		

題　目

Preventive effects of mouthguard use while sleeping on recurrent aphthous stomatitis: Preliminary interventional study

（就寝時マウスガードを使用することによる、再発性アフタ性口内炎に対する予防効果：予備的介入研究）

要　旨

再発性アフタ性口内炎（Recurrent Aphthous Stomatitis : RAS）は、口腔内に再発を繰り返す小潰瘍を特徴とする口内炎で、疼痛の強さのみならず、再発の心理的不安など患者の QOL を低下させる要因となっている。その病因は完全には解明されておらず、現在の治療は対症療法のみで、再発を防止するのは困難である。本研究では、就寝時のマウスガード装着による RAS の予防効果を検討した。

就寝時のマウスガード装着によって、RAS 発生数の平均値は 5.5 回から 1.0 回に有意に減少した。また、RAS の発症から治癒までの平均日数は 7.3 日から 5.6 日に有意に減少した。RAS が口腔内に存在した期間も、60 日間の内、マウスガード使用で 31.5 日間から 5.0 日間に有意に減少した。唾液中のサイトカイン・ケモカインの発現量の網羅的解析から、マウスガード装着により減少した IL-6 および EGF に着目し、被検者 6 名の介入前後の唾液で検討したところ、有意差は認められなかったが、IL-6 がマウスガード使用中に減少する傾向が認められた。

以上の結果から、就寝時のマウスガードの使用は、非常に簡易で、臨床的に応用可能な新たな予防法と考えられた。

以上より、本研究は歯科医学の発展に寄与する優れた研究内容であり、申請者は当該分野における学識と研究能力を有していると評価し、博士（歯学）の学位と授与するに十分に値すると判定した。